

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校穴吹ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	企業ビジネス学科 経営ビジネス専攻	夜・通信	680 時間	160 時間	
	企業ビジネス学科 不動産ビジネス専攻	夜・通信	1350 時間	160 時間	
	ブライダル学科	夜・通信	640 時間	160 時間	
	ホテル学科	夜・通信	660 時間	160 時間	
文化教養専門課程	海外ビジネス学科	夜・通信	210 時間	160 時間	
	公務員ビジネス学科	夜・通信	0 時間	160 時間	※
	公務員学科	夜・通信	0 時間	80 時間	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.anabuki-college.net/information/info.php

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	公務員ビジネス学科・公務員学科
(困難である理由) 本学科は、国家公務員（高卒者試験）・地方公務員（初級）の採用試験合格を目指し、一般知識・一般知能の科目を中心に指導しているため、実務経験のある教員による指導が困難です。	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校穴吹ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.anabuki-college.net/information/info.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	令和元年5月 ～令和3年5 月	コンプライアンス
非常勤	元銀行頭取	令和元年5月 ～令和3年5 月	企画・調整
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校穴吹ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p> <p>※シラバスの主な記載項目</p> <p>(1) 科目名 その授業の科目名を記載します</p> <p>(2) 学科/学年 授業を行う学科名および学年を記載します</p> <p>(3) 年度/時期 授業を行う年度および時期(前期・後期)を記載します 単位制の場合は標準履修年次を記載します</p> <p>(4) 授業形態 講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します</p> <p>(5) 授業の回数 授業を行う回数(コマ数)を記載します</p> <p>(6) 単位数(時間数) 学則に記載している時間数を単位換算したものを記載します 講義: 15時間を1単位とする 演習、実習: 30時間を1単位とする 時間数は90分授業の場合、1コマ=2単位時間 50分授業の場合、1コマ=1単位時間</p> <p>(7) 必須・選択 必須授業もしくは選択授業について記載します</p> <p>(8) 授業担当者</p>

<p>授業を担当する教員名を記載します 複数の教員で担当する場合は全員の氏名を記載します また、実務経験がある教員の場合はその旨を記載します</p> <p>(10) 授業の目的・ねらい 授業の趣旨を記載します 授業を行うのは教員なので、教員を主語として具体的に記入します また、実務経験がある教員が授業を行う場合は、実務経験をどのように活かして授業を行うかを記載します</p> <p>(11) 授業終了時の達成課題（行動目標） 授業終了時点において学生が修得している必要がある学修成果について記載します 目標を達成するのは学生なので、学生を主体として記載します</p> <p>(12) 授業の内容 授業の各回におけるテーマおよび内容について具体的に記入します ※学生の理解度・実態に応じてやむを得ず変更する可能性もあります</p> <p>(13) 準備学習 授業に臨む前に行っておくべき内容を記載します</p> <p>(14) 使用テキスト 使用するテキストや参考書等を記載します</p> <p>(15) 単位の認定方法及び基準（試験等の評価方法） 評価方法について記載します また、評価基準についてそれぞれの項目の評価割合を記載します</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.anabuki-college.net/information/info.php
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>【学生便覧より抜粋】</p> <p>(成績評価)</p> <p>成績評価は原則として、年2回の期末に科目毎の評価を行う。</p> <p>成績評価は、期末試験の他、出席率・確認テスト・課題・レポート・検定取得状況・授業態度等を参考に総合的に評価する。</p> <p>評価基準は、A、B、C、Dの4段階とし、A～Cを合格とする。</p> <p>A：科目に対する理解及び日常の学習状況等が著しく優秀な者（成績評価が80点以上）</p> <p>B：科目に対する理解及び日常の学習状況等が良好な者（成績評価が70点以上79点以下）</p> <p>C：科目に対する理解及び日常の学習状況等がやや劣る者（成績評価が60点以上69点以下）</p> <p>D：科目に対する理解及び日常の学習状況等が著しく劣る者（成績評価が60点未満）</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【学生便覧より抜粋】</p> <p>(成績評価に係る指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.anabuki-college.net/information/info.php</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【学生便覧より抜粋】

(企業ビジネス学科)

各専攻で、経理・不動産・コンピュータ・営業についての専門知識を修得させるとともに、人間力を併せ持ちビジネス界との連携を取った教育プログラムで、社会のニーズに即した人材の卒業を認定する

(ブライダル学科)

ブライダル知識・ブライダル実務を中心とする幅広い専門知識と実践的応用能力を習得させる。2回のブライダルショー・卒業時に実際の結婚式企画・運営を経験することにより、協調性や忍耐力の必要性、おもてなしの心の大切さを体得させ幅広い業界で必要とされる人材の卒業を認定する

(ホテル学科)

宿泊業に従事するために必要な知識・技術を習得させ、3ヶ月に及ぶ県外でのインターンシップで実践的応用力を持った人材を養成するまた、英語を中心とした語学力・コミュニケーション能力・ホスピタリティマインド・社会人基礎力など幅広い知識と豊かな心を持つ人材の卒業を認定する

(海外ビジネス学科)

英語、第二外国語を体系的に学び、香川県はもとより日本の国際化をサポートできるグローバル人材を目指す。語学系資格に加え、ビジネス・サービス系資格も取得し、航空・旅行業界、外資系企業など幅広い業界で活躍できる人材の卒業を認定する

(公務員ビジネス学科)

公務員として必要な資質を修得させるとともに、ボランティア精神など豊かな人間性とビジネス能力を兼ね備えた人材の卒業を認定する

(公務員学科)

短期間で公の仕事を理解させ、社会性とビジネス能力を兼ね備えた人材の卒業を認定する

(卒業認定の条件)

- a. 成績評価すべてC以上
- b. 年間出席率90%以上

原則として上記条件をすべて満たした者。

ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[http://www.anabuki-
college.net/information/info.php](http://www.anabuki-college.net/information/info.php)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校穴吹ビジネスカレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/kessan-kansa.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/kessan-kansa.pdf
財産目録	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/zaisan.pdf
事業報告書	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/kessan-kansa.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	企業ビジネス学科 (経営ビジネス専攻)	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間／単位	750 単位 時間	950 単位 時間	0 単位時 間	0 単位時 間	0 単位時 間
			1700 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		21 人	4 人	2 人の内数	7 人	9 人の内 数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>（成績評価に係る指標の算定方法）</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p>

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(卒業認定の条件)</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	25人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
営業、事務、販売、一般企業等			
(就職指導内容)			
個別ガイダンス、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等))			
日商簿記2級 40%合格、日商簿記3級 68%合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長（保護者同席）とのガイダンスを行う経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセ		

ラーに依頼する

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	企業ビジネス学科 (不動産ビジネス専攻)	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 時間	960 単位 時間	740 単位 時間	0 単位時 間	0 単位時 間	0 単位時 間
			1700 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		16 人	0 人	2 人の内数	11 人	13 人の内 数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (卒業認定の条件) a. 成績評価すべてC以上 b. 年間出席率90%以上 原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	8人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 営業、不動産業界			
(就職指導内容) 個別ガイダンス、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 宅地建物取引士(国家試験) 50%合格、管理業務主任者(国家試験) 62.5%合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長(保護者同席)とのガイダンスを行う経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	ブライダル学科	○	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700時間	460単位時間	1080単位時間	160単位時間	0単位時間	0単位時間
		1700単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	32人	0人	2人	8人	10人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>（成績評価に係る指標の算定方法）</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>（卒業認定の条件）</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 結婚式場、貸衣装店、ジュエリー店、スタジオ等			
（就職指導内容） 個別ガイダンス、面接指導			

(主な学修成果(資格・検定等)) ブライダルコーディネーター検定3級 50%合格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	1人	4.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長(保護者同席)とのガイダンスを行う経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	ホテル学科	○	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700時間	530単位時間	680単位時間	490単位時間	0単位時間	0単位時間
	夜間		1700単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	11人	0人	1人	13人	14人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目について

てシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100 点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第 2 号の 3 より再掲】 (卒業認定の条件) a. 成績評価すべて C 以上 b. 年間出席率 90% 以上 原則として上記条件をすべて満たした者。 ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。
学修支援等
(概要) ■個別相談・指導等の対応 担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11 人 (100%)	0 人 (0%)	11 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) ホテル、旅館等			
(就職指導内容) 個別ガイダンス、面接指導			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が 5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長（保護者同席）とのガイダンスを行う経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決		

策を探す精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	海外ビジネス学科	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700時間	530 単位時間	680 単位時間	490 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1700 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		6人	0人	1人	13人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>（成績評価に係る指標の算定方法）</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>（卒業認定の条件）</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 個別ガイダンス、面接指導			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） H31年4月入学生より受け入れ開始			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長（保護者同席）とのガイダンスを行う経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	公務員ビジネス	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1720 単位時間／単位	462 単位時間	1258 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	夜間		1720 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		34人	0人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>(概要)</p> <p>カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(成績評価に係る指標の算定方法)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(卒業認定の条件)</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (%)	6人 (86%)	1人 (14%)
(主な就職、業界等)			
国家公務員、地方公務員			
(就職指導内容)			
個別ガイダンス、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等))			
公務員1次試験 93.3%合格			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	2人	13.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、進路決定（公務員合格）のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長（保護者同席）とのガイダンスを行う経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門課程	公務員学科	—	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	860 単位時間／単位	252 単位時間	608 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			860 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
10人	2人	0人	2人	0人	2人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 【様式第2号の3より再掲】 （成績評価に係る指標の算定方法） 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>(卒業認定の条件)</p> <p>a. 成績評価すべてC以上</p> <p>b. 年間出席率90%以上</p> <p>原則として上記条件をすべて満たした者。</p> <p>ただし、卒業条件を満たせなかった者で、相当の事由があると卒業判定会議において認められたとき、卒業を認める場合がある。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>■個別相談・指導等の対応</p> <p>担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスを学生相談室や進路指導室等を利用して実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても小集団・個別に補講や個人支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (%)	6人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 国家公務員、地方公務員			
(就職指導内容) 個別ガイダンス、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 公務員1次試験 100%合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	3人	33%
(中途退学の主な理由) 進路決定(公務員合格)のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とのガイダンスを行い、その後、教務部部長(保護者同席)とのガイダンスを行う経済的な問題の場合は、事務局のガイダンスを覆ない、解決策を探す精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
企業ビジネス学科 経営ビジネス専攻	160,000 円	870,000 円	136,000 円	
企業ビジネス学科 不動産ビジネス専攻	160,000 円	870,000 円	146,000 円	
ブライダル学科	160,000 円	890,000 円	203,000 円	
ホテル学科	160,000 円	890,000 円	255,000 円	
海外ビジネス学科	100,000 円	980,000 円	280,000 円	
公務員ビジネス	160,000 円	790,000 円	151,000 円	
公務員学科	160,000 円	790,000 円	178,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2018/abk-rating-2.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける</p> <p>②自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する</p> <p>③結果として、職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画を立案し、PDCA サイクルを回し続ける</p> <p>【学校関係者評価委員会規定より抜粋】 (委員の委嘱等)</p> <p>委員会を構成する委員は、5名以上とし、本校の職員以外の者で次に掲げる者のうちから、校長が委嘱する。</p> <p>(1) 保護者</p> <p>(2) 本校の卒業生</p> <p>(3) 地域住民</p> <p>(4) 企業関係者</p> <p>(5) 高等学校関係者</p> <p>(6) その他教育に関する有識者</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
ハウス美装工業株式会社	平成 30 年 11 月 1 日～ 令和元年 10 月 31 日	企業等委員
株式会社 J R 四国ホテルズ	平成 30 年 11 月 1 日～ 令和元年 10 月 31 日	企業等委員
株式会社青柳	平成 30 年 11 月 1 日～ 令和元年 10 月 31 日	卒業生

	平成 30 年 11 月 1 日～ 令和元年 10 月 31 日	元高校関係委員
	平成 30 年 11 月 1 日～ 令和元年 10 月 31 日	保護者代表委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2018/abk-rating2.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.anabuki-college.net/abk/
--